

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第49回）に係る面談
2. 日時：平成28年12月20日（火） 13時40分～15時45分
3. 場所：原子力規制庁 9階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

今井室長、熊谷補佐、三澤安全審査官、加藤安全審査官、牧係長
長官官房 技術基盤グループ 安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付
南部技術研究調査官

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクト計画部
課長 他7名

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、特定原子力施設監視・評価検討会（第49回）に向けた資料の準備状況について、説明を受けた。

○原子力規制庁から、

- ✓ サブドレン停止期間における陸側遮水壁（海側）の内外の地下水位変動の差異について、陸側遮水壁（海側）の効果がまだみられなかった時期との比較を行うこと
- ✓ 海側海水配管トレンチ立坑Cの汚染水の放射能濃度がタービン建屋の滞留水よりも高いことを踏まえ、立坑C閉塞後の監視強化の具体的手法について明示すること

等を求めたところ、東京電力から、次回検討会に向けて準備する旨の回答があった。

6. 資料

- 建屋滞留水処理の進捗状況について（案）
- フランジ型タンクの使用状況と今後の対応方針について
- 陸側遮水壁の状況
- 福島第一原子力発電所1～3号機原子炉注水量低減の進捗状況について
- 2号機海水配管トレンチ立坑Cの状況と今後の対応について